

## トピックス

The 12<sup>th</sup> International Symposium on Virus Diseases of Ornamental Plants (ISVDOP 12) レポート

花き研究所 松 下 陽 介

2008年4月20日から24日までThe 12<sup>th</sup> International Symposium on Virus Diseases of Ornamental Plants (ISVDOP 12) がオランダのハーレム (Haarlem) で開催された。

開催地のハーレムはスキポール空港からバスで20～30分の距離にあり、首都アムステルダムから約20 kmにある古都で、周辺はチューリップ畑が広がり、駅を中心に住宅街が取り囲んでいる閑静な街である。

シンポジウム参加者は100名程度で、ヨーロッパの参加者が最も多く、次いで、北米、中東からはイスラエル、サウジアラビア、アジアからは中国、台湾、韓国、インド、インドネシア、その他はロシア、グアテマラ、コロンビアなどであった。日本からは私を含めて3名が参加した。シンポジウムの発表は口頭発表が40題、ポスター発表が34題で、発表内容は花または観葉植物のウイルス、ウイロイド、ファイトプラスマの新病害の報告が主に取り上げられていた。なお口頭発表の内容は<http://www.plantenvirologie.nl/ISVDOP12/invitation.htm> から入手できる。

筆者はキクわい化ウイロイドの感染性クローンの研究についてポスター発表を行なった。以下は著者が関心を持った項目である。

著者はトマト退緑萎縮ウイロイド (*Tomato chlorotic dwarf viroid*; TCDVd) の日本のトマトにおける発生を報告したが (松下, 2006), 本シンポジウムではイギリスのペチュニアの母株から TCDVd が検出されたとの発表があった。TCDVd はペチュニアでは病徴を示さないことから、TCDVd の発生源になっている可能性を示唆する報告と思われる。さらに、チェコでもペチュニアから TCDVd が初めて検出されたとの口頭発表があった。

わが国のフリージアに感染するウイルスとしては、インゲンマメ黄斑モザイクウイルス (*Bean yellow mosaic virus*, BYMV) とキュウリモザイクウイルス (CMV) によるモザイク病が知られているが、これ以外にオランダでは *Freesia ophiovirus* (FOV) と呼ばれるオルピディウム菌 (*Olpidium* sp.) 媒介性のウイルスが知られ、その発生生態についての発表が2点あった。

インドネシアのキクではキクウイルス B (*Chrysanthemum virus B*) の強毒系の特性についての発表があった。このウイルスは日本のキクでは現在あまり問題になっておらず特別な対策はされていないが、インドネシア産のキク苗が大量に日本に輸出されている昨今を考えると警戒を要すると思われる。他には、ウイルス、ウイロイドの検出方法についての発表が数点あった。

## 引用文献

- 1) 松下陽介 (2006): 植物防疫 62: 461 ~ 464.



シンポジウム開催地ハーレム郊外の風景

Report of the 12<sup>th</sup> International Symposium on Virus Diseases of Ornamental Plants. By Yousuke MATSUSHITA

(キーワード: ISVDOP, ウイルス病)